

日 時 平成29年12月20日(水)

午後2時30分～

場 所 葛西臨海水族園 レクチャールーム

葛西臨海水族園のあり方検討会 第1回

会議録

【会議（第一部）】

午後2時34分～午後3時35分

○荒井課長代理 定刻になりましたので、ただ今より、第1回葛西臨海水族園のあり方検討会を開催させていただきます。本日はお忙しい中、葛西臨海水族園まで足をお運びいただきましてありがとうございます。私は、本日の司会進行を務めます建設局公園緑地部の荒井と申します。よろしくお願いいたします。

初めに、本日お手元にお配りしております資料の確認をさせて頂きたいと思います。次第の下の方にリストがついておりますが、一番最初にあり方検討会の設置要綱、その次に検討委員の名簿、そしてもう一枚、座席表、最後にA4ヨコの検討会第1回説明資料がございます。不足等がございましたら、お手数ですがお声掛け下さいますよう、お願いいたします。

それでは開会に当たりまして、建設局公園緑地部長 日浦よりご挨拶申し上げます。

○日浦公園緑地部長 建設局公園緑地部長の日浦でございます。

委員の皆様には、年末の大変お忙しい中、葛西臨海水族園のあり方検討会にご出席をいただきまして、誠に有難うございます。

また、平素より、都立の動物園ですとか水族園にご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

葛西臨海水族園でございますが、上野動物園の開園百周年記念事業の一環として計画されたものでございまして、平成元年に開園をしております。人々の海洋への関心を高め、楽しみながら自然への認識を深める「海と人間の交流の場」という理念を掲げまして、公園の教養施設として管理運営をまいりました。

平成27年1月には、累計来園者数が五千万人に達するなど、これまで、大変多くの方々に親しまれてまいりました。

さて、都立水族館の歴史は大変長くて、明治15年、国内初の水族館といたしまして上野動物園内に誕生した「うをのぞき」が起源でございます。

以降、様々な技術を磨きながら、飼育困難な生物への挑戦ですとか希少種の保全・繁殖、多様な教育プログラムなど、国内水族館をリードする取組を進めてまいりました。

しかしながら、開園から30年近くが経過いたしまして、施設や設備の老朽化が進んでいるほか、水族園等を取り巻く社会状況も変化してございます。

本検討会におきましては、都立水族館として持続的に発展するための役割ですとか機能等をご検討いただきまして、葛西臨海水族園の今後のあり方を取りまとめていただきたく存じます。

都立動物園・水族園につきまして、より一層のご指導を賜りますようお願い申し上げ、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞ宜しくお願いいたします。

ます。

○荒井課長代理 本日は第 1 回目となりますので、検討に入る前に、事務局より委員の皆様をご紹介させていただきます。

○小林再生計画担当課長 公園緑地部再生計画担当課長、小林でございます。よろしくお願いいたします。

ご出席の委員の皆様を、名簿の順にご紹介をさせていただきます。

千葉大学大学院園芸学研究科教授の池邊このみ委員でいらっしゃいます。

○池邊委員 池邊でございます。よろしくお願いいたします。

○小林再生計画担当課長 博報堂 DY ホールディングス CSR 推進担当部長の川廷昌弘委員でいらっしゃいます。

○川廷委員 川廷です。よろしくお願いいたします。

○小林再生計画担当課長 東京大学大学院人文社会系研究科教授で静岡県立博物館館長の木下 直之委員でいらっしゃいます。

○木下委員 静岡県立美術館です。

○小林再生計画担当課長 失礼いたしました。大変失礼をいたしました。

○木下委員 木下です。よろしくお願いいたします。

○小林再生計画担当課長 東京国立博物館 博物館教育課長の小林牧委員でいらっしゃいます。

○小林委員 小林でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○小林再生計画担当課長 愛媛大学社会共創学部環境デザイン学科教授の佐藤哲委員でいらっしゃいます。

○佐藤委員 佐藤でございます。よろしくお願いいたします。

○小林再生計画担当課長 淑徳大学経営学部観光経営科教授の千葉千枝子委員でいらっしゃいます。

○千葉委員 千葉千枝子です。どうぞよろしくお願いいたします。

○小林再生計画担当課長 東海大学客員教授の西源二郎委員でいらっしゃいます。

○西委員 西でございます。よろしくお願いいたします。

○小林再生計画担当課長 首都大学東京客員教授で国立教育政策研究所名誉所員の鳩貝太郎委員でいらっしゃいます。

○鳩貝委員 鳩貝です。よろしくお願いいたします。

○小林再生計画担当課長 なお、海津 ゆりえ委員は、所用により遅れる旨のご連絡をいただいております。東京都及び葛西臨海水族園を運営する公益財団法人東京動物園協会の出席者につきましては、恐れ入りますが、お配りしております座席表にてご確認ください。よろしくお願いいたします。

○荒井課長代理 続きますして、本検討会の要綱第3に基づき、座長の選出をお願いしたいと思えます。

座長は、委員のみなさまの互選にて選出をお願いしたく存じますが、いかがでございしょうか。

○鳩貝委員 鳩貝です。座長でございしますが、これまで生物の研究を長年されてきましたし、水族館館長もされ、さらに水族館に関する著作、論文等多数あります西委員が宜しいかと思えますが、いかがでございしょうか。

(異議なしの声)

○荒井課長代理 ありがとうございます。それでは座長は西先生をお願いしたいと思えます。以後の進行と副座長のご指名もお願いいたします。座長の席にご移動願えますでございしょうか。

○西座長 それでは改めまして、西でございします。みなさまにご推薦頂きましたので、座長を務めさせていただきます。なにぶん不慣れですので、みなさんにご協力を得て、進めてまいりたいと思えますので、よろしくお願いいいたします。

それではさっそくですが、副座長をお願いする件ですが、この検討会は、博物館施設である葛西臨海水族館のあり方を検討するということですので、文化資源学がご専門で、動物園水族館と関連する JAZA、公益財団法人日本動物園水族館協会顧問も務めていらっしゃる木下先生をお願いしたいと思えます。よろしくお願いいいたします。

○木下副座長 ご指名いただきましたので、西座長とともに、この検討会を進めてまいりたいと思えます。よろしくお願いいいたします。

○西座長 それでは、議事に移らせて頂きます。

まずは事務局より、資料の説明をお願いします。

○小林再生計画担当課長 はい、それではここからは着座にてご説明させていただきますので、よろしくお願いいいたします。資料のご説明に先立ちまして、本検討会は、東京都情報公開条例に基づき、公開にて行わせていただき、会議資料、会議録等は、後日ホームページなどで公開したく存じます。

公開にあたり、個人情報や、都民等の間に混乱を生じさせる恐れがある未確定の情報等がある場合には、一部非開示として取り扱えればと考えてございしますが、いかがでございしょうか。

○西座長 今事務局から、本検討会と資料等の公開に関する説明がありましたが、皆さまいかがでございしょうか。よろしいでございしょうか。

(異議なし、の声)

○西座長 それでは、事務局の提案どおり、検討会は公開で行い、資料についても、支障のない範囲で公開ということといたします。

○小林再生計画担当課長 ありがとうございます。

それでは、お手元にお配りしてございます説明資料をご覧くださいませでしょうか。A4ヨコの、ホチキス止めの資料でございます。

表紙をおめくりいただきますと目次がございます。1の背景から4の主な課題・視察コースまで通してご説明をさせていただきます。

目次をおめくり下さい。

1ページでございますが、1、検討会設置の背景でございますが、6点書かせていただきました。まず、葛西臨海水族園が開園した平成元年以降、都内を含めまして多くの水族館が開館しており、改めて都立水族館の意義や役割について考える必要があると考えてございます。また、開園から30年近くが経過し、施設や設備の老朽化が進んでおり、抜本的な更新も必要になっております。誰もが観やすく、使いやすい施設への改修など、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、対応することも必要でございます。

気候変動等で生態系に変化がみられる中、生物多様性保全の取組を強化する必要もございます。

人と自然との共生を推進していくため、環境教育を更に充実していく必要もございます。そして、東京の魅力を体験できる、ユニークベニュー等の施策を一層展開する必要もございます。

このような状況も踏まえまして、これらからも多くの方々に親しまれる都立水族館として持続的に発展していくため、水族館や博物館、環境教育、ランドスケープ、広報・宣伝・観光などの多面的な観点から今後のあり方についてご検討いただきたく、設置したものでございます。

次のページをご覧ください。

2、検討の進め方ですが、本日を含め来年7月頃までに、5回の検討会を予定してございます。次回より、葛西臨海水族園が担うべき機能や役割、あるべき姿等をご検討いただければと考えてございます。大変限られた期間でのご検討をお願いすることとなりますが、どうぞよろしく願いいたします。

次のページをご覧ください。3、葛西臨海水族園の概略について、ご説明をさせていただきます。

まず、都立水族館の歴史でございます。

明治15年、日本初となる水族館、観魚室（うをのぞき）が、上野公園に開園した動物園内に、これは、東京国立博物館の前身となります、農商務省博物館局により設置をされました。宮内省への移管を経まして、大正13年、東京市に払い下げられたものでございます。

この時より、動物園水族園は公園部署が所管し、現在に至ってございます。

その後、上野動物園で数回の改修・整備を行いました。上野動物園開園100周年記念事業として、葛西臨海公園に水族館を建設することとなり、平成元年10月10日に開園したものでございます。

次のページをご覧ください。立地・経緯でございます。

赤柾の葛西臨海水族園は、葛西沖の埋立地、緑色の葛西臨海公園内でございます。公園では自然環境が充実してきており、鳥類も多く飛来しております。紺色の隣接地では、2020年大会に向けまして、カヌー・スラローム競技会場の整備を進めているところでございます。

水色の葛西海浜公園の干潟や水域にも、多くの水生生物が定着しております。葛西臨海水族園では、西なぎさ、東なぎさで、生物のモニタリング調査を実施してございます。

なお、葛西海浜公園では、ラムサール条約に基づくエリアとして登録することの検討も進めているところでございます。

次のページをご覧ください。

施設概要といたしまして、面積、構造、総水量、展示生物数、入園料等を記載してございます。総水量約 4,600t のうちクロマグロの大水槽は 2,184t、水槽として国内で 3 番目の大きさでございます。

運営は、指定管理者制度により、公益財団法人東京動物園協会が担ってございます。

開園当初の理念・目標でございますが、理念は海と人間の交流の場を掲げてございます。

目標は、自然教育を重視する公共施設であることを念頭に、設定されたものでございます。

21 世紀に向けた新しい展示の開発、飼育困難とされた海の生物の展示などがございますように、葛西臨海水族園は、これまで実現していなかった新たな飼育展示に挑戦し、海の生命の豊かさ、多様さが理解される場となるよう、様々な技術を磨いてまいりました。具体的な取組をご紹介します。次のページ、6 ページをご覧ください。

最初に、東京の川・海から世界の海までの、多様な生物・環境の展示でございます。

これらの展示には、国内外からの収集ルート、長距離・長時間の輸送、そして高度な飼育・展示技術が必要となります。葛西臨海水族園はこの 3 つの課題に取り組み、様々な苦労や研究を重ねた結果、現在の展示に至ったものでございます。ここで代表的な展示をいくつかご紹介させていただきます。

まず大洋の航海者、クロマグロやアカシユモクザメでございますが、こちらは、収集、輸送、飼育環境をそれぞれ研究をし、大型回遊魚の長期的な飼育展示に成功したという例でございます。

次のページでございますけれども、世界の海のコーナーに展示をしてございます北極・南極の極地の生物、また、イシサンゴ、深海の生物や、海藻の林の展示につきましても、それぞれの課題を克服しまして、飼育展示を実現いたしました。

こちらの詳細につきましては、第二部の視察の中でも、ご覧をいただこうと考えてございます。

次のページでございますが、繁殖や希少種保全の取組でございます。

葛西臨海水族園は、国内水族館として最多となる繁殖賞を 51 回受賞してございます。

魚類だけでなく、ペンギンやエトピリカ等の海鳥の繁殖にも力を入れてまいりました。

また、東京都内で絶滅の恐れがありますアカハライモリやトビハゼ、ユウゼン等の生息地内外での保全や調査を実施しており、それぞれの生息地でのモニタリング調査等、継続的な活動に取り組んでいるところでございます。

次のページ、9ページは、多様な教育プログラムの提供でございます。

まず、教育施設等と連携した学習、研究活動として、年齢別の教育プログラム、博物館実習、学生の職場体験、大学との共同研究等を行ってございます。

また、葛西臨海水族園では、その日の生物の状態に合わせ解説ができる専門スタッフを、開園当初より配置してございます。

更に、平成27年度から移動水族館事業を開始いたしました。訪問先は社会福祉施設や病院などで、障がいや病気のためにご来園いただくことが難しい方のもとに海をとどけており、大変ご好評をいただいております。

次のページ、展示技術や手法の開拓についてご説明をさせていただきます。

まず、クロマグロの大水槽でございますけれども、アクリルガラスの巨大パネルを現場接着することで、支柱のない大きな展示面が実現する、といった工法が、こちらの葛西から生まれました。この成功が、その後の大型水族館誕生の原動力につながったといえると思います。

次の、限られた海水での飼育ですが、葛西臨海水族園が面する東京湾は川の河口にあるため塩分濃度が薄く、飼育にはなかなか適さないという状況がございます。また展示には、海水の透明度を維持することも必要です。葛西では、海水を運搬して使用しているため、生物の生息環境を維持しつつ、海水を長く使うための工夫や研究を重ねているところでございます。

ほかに、造波装置、屋外空間と一体となった断面展示、バックヤードを見せる展示も、葛西が先駆けとなり広まった技術でございます。

次のページをご覧ください。

4、主な課題と視察コースをご説明させていただきます。

まず、主な課題としまして、3点を挙げさせていただきました。

最初に、設備等の抜本的な更新でございますが、ろ過タンクや配管の改修・交換が困難なために、老朽化が進行しているというものでございます。こちらの資料にも写真を部分的につけさせていただきましたけれども、奥にございますタンクの交換がなかなかできないというところで、少しこの、さびが出てしまっているという状況が写真からご覧いただけるかと思っております。

次のバリアフリーへの対応でございますが、階段を利用しないとご覧頂けない展示等に対し、対策を講じる必要があると考えてございます。こちら資料の中で2点ほど写真を入れさせていただきましたが、展示の他にも、エレベーターが業務用と兼用で1基しかないといったところも、こちらの水族園の大きな課題となっております。

そして東京の魅力の発信でございます。都立施設の利活用は、知事も力を入れて取り組んでいる施策でございまして、ユニークベニュー等としての活用を推進してまいりたいと考えているところでございます。

次のページでございませうけれども、12ページは視察コースでございます。

第二部でご覧いただきますコースを、簡単にご紹介をさせていただきます。まず、本館の3階、空の広場からスタートさせていただきます、エレベーターで1階に降りていただき、屋外の水辺の自然を最初にご覧をいただきます。その後、本館内を1階からご覧いただき、その後2階をご案内させていただくというようなコースで、本日も案内をさせていただきます。

視察につきましては、これまでご説明差し上げました、園の特徴や実績、また主な課題を中心にご説明をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

資料の説明は以上でございますが、ここでご到着をされました委員をご紹介させていただきたいと思っております。

文教大学国際学部国際観光学科教授の海津ゆりえ委員でいらっしゃいます。

○海津委員 よろしくお願ひします。

○小林再生計画担当課長 では、私からのご説明は以上でございます。

○西座長 今事務局の方から、葛西臨海水族園の歴史ですとか、現状、それから問題点等について詳しくご説明を頂きました。本検討会は、葛西臨海水族園が今後も持続的に発展するために担うべき役割や機能を取りまとめることとなります。本日は、この後園内の視察も予定されているため、実質的な検討は次回からになるかと思っております。

この場では、今までのご説明等を踏まえて、委員の方お一人お一人から一言ずつお話を伺ったらいかがかと思っております。それぞれ、色々なご専門の方がおられますので、ご専門のことをからめてでも結構ですので、ご専門の事、水族園のことということで、大体おひとり3分くらいでいただければと思っております。名簿の順でよろしいでしょうか。一番バッターで申し訳ないのですが、よろしくお願ひいたします。

○池邊委員 私自身は造園学の専攻なんですけれども、この葛西臨海水族園とは、丁度、娘が平成元年生まれでございまして、バギーを押してきたけれどもバリアフリーのところがやっぱり難しく、次の機会は抱っこで行ったような気がいたします。それから娘は、新宿区の幼稚園、小学校でございましたので、そういうときにも、伺わせていただきました。私の専門からいいますと、どちらかというと動物園、植物園のほうが多いんですけれども、昨今では、動物園、植物園というのは、一旦子供の手を放してしまうと、どこに行ってしまうかわからない。水族館というのは、入口と出口さえきちんとしていけば、かなりセキュリティが高いということでございます。名古屋の東山なんかでも講演をさせて頂いたことがあるんですけども、昨今では水族館というのは、動物園と比べても人気があるといったふうに認識しております。一方で私のいる千葉の方では、鴨川シーワールドも有名ですけども、昔、フラミンゴのショーをしていたようなところがリニューアルをしよう

とか新しい施設に生まれ変わるというような話も出てきておりました、海に対する、国民の嗜好というものも非常に高くなっているのではないかと思います。私自身も、ダイビングはやりませんが、シュノーケリングで娘と何回かやりまして、そういう体験をすると、海の生物というのは、また違っているという感じがいたします。また自宅でもタツノオトシゴとか飼ったことがございまして、動くもので、水の中にいるものというのは動物園とはまた違った魅力があり、健康とか、心を病んでいるような市民にとって、水族館というのはクラゲとかが非常に大人気と聞いておりますけども、癒しというような意味でも重要になってきていると思います。また、昨日ちょうど環境省の委員会で、生物多様性連携促進法の成果がなかなか進まないという話で、国交省と農水省さんとの共管で委員会がありました。生物多様性というのは、里山とかでは進んでいるんですけども、どうも日本はこれだけ海域がありながら、こちらにこうした園があることは存じているんですけども、少し縁遠いのかなというような気がいたします。また海流だとか、気候だとかという面から、本来であれば日本の国民としては知っていてもいいのかなという気がいたします。また建築物としても、海外の水族館は様々な工夫をしておりますけども、一方で今日は CSR がご担当の方もいらっしゃいますけども、いろいろな美術館なんかだと、夜間利用で、あるひとつの企業だけを迎えて、今日はモルガン・スタンレーの日、というときは、モルガン・スタンレーの案内だけがついていて、夜間の利用をやっているところもございまして。ここは少し夜間利用するには遠いかもしれませんが、ディズニーランドもございまして、もう少し、そういった大人が楽しめる場所として、新たなターゲット、新たなライフスタイルをこの水族館を通じてうみ出すといったようなことができればいいかなと思います。また、園内が広いんですけども、それがこの水族館の特徴のひとつと思っておりますが、それがなかなか、周り、園と、建物の中との連携というか、あまり感じられないので、そのあたりがランドスケープのひとつの課題だと思っております。そのあたりも少しお話のお手伝いできればと思っております。よろしく願いいたします。

○西委員 どうもありがとうございました。それでは海津委員、来られてすぐですけども、よろしく願いいたします。

○海津委員 遅刻いたしまして失礼いたしました。文教大学国際学部国際観光学科の海津でございます。私は専門がエコツーリズムでして、エコツーリズムというのは、環境を守りながら観光をする、地域の活性化を観光から考えていくということで、そのあたりを専門としております。最近持続可能な観光といったものも進めております。葛西臨海水族園は、できた当初に真っ先に見に来たんですけども、それ以来かもしれないという感じなのですが、個人的なことと言うと私、川廷さんと同じく湘南に住んでおりますので、自宅のすぐそば、10分のところに江ノ島水族館がありまして、リニューアルを契機にかなり人が増えて、そのあたりのお話も聞いておりました、そんなことも今回ちょっと参考になるのかなと思っております。エコツーリズムは、自然とのふれあいなんですけども、水族館や動物園は本当の自然じゃないという見方もありますが、生物は本物でございまして、

生の生物とのふれあいは、必ず人を変えるので、そういう役割をどんなふうにしていくのかというお話に関われる、提案できるというのは、非常に今回楽しみにしております。また、国際という面で見ますと、海には国際交流の出発点というものがあまして、先ほどのご説明の中で、海の人間の交流がテーマとありましたが、水族というか、生き物についてが詳しいですけども、そこから人がどう海からでていったのかということも、伝わるような施設になるといいなと思っております。東京にあるというのもその意味ではすごく象徴的な施設だと思っております。自然という、生物というか理科的なお話と人文的なお話、両方ともが加味した水族館のリニューアルができればいいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○西座長 どうもありがとうございました。それでは、川廷さん。

○川廷委員 博報堂 DY の川廷と申します。博報堂の CSR の肩書で対外的には動いておりますが、私は一般社団法人 CEPA JAPAN という生物多様性の普及啓発の NGO の代表もしております、COP10 の時に、CEPA で教育コミュニケーションの決議があったんですけども、修正決議案の提案をして、採択された経緯があります。CEPA というのは、コミュニケーション、エデュケーションといったものですので、日本の伝統景観といったところを、生物多様性の普及事業の中に入れこむということが非常に重要だと感じましたので、日本人の持っている人的共生感というものを大切に、事業、教育、コミュニケーションということを念頭に置いた提案をしたのが受け入れられたということでございます。それ以降環境省と UNDB、国連生物多様性 10 年の委員会に勤めさせていただき、委員会の運営のお手伝いをしておりまして、先般さかなクンと一緒にステージをやってきましたんですけども、さかなクンとは何をやったかと言いますと、SDG s でございます。SDGs は 17 目標で、環境、気候変動と陸域と海域と 3 つの目標のように見えていますが、生物多様性でいえば、自然共生というのは、人間の一番ベーシックな部分ですので、17 目標の全てに関わると、私自身はそういう考え方をしております。そのお話をさかなクンと共有しながら、生物多様性と SDG s との結びつきみたいな話もしてきております。やはりそういうコミュニケーションという意味で、今、旬になっている SDG s と、それから 2030 年までのサステイナブルディベロップメント等、ですから、僕の中では、この、葛西のことっていうのは、そういうことを当然考えていけるのではないかなと思っております。SDG s で一番大事にしていることは、誰も置き去りにしないというキーワードではないかと思えますし、あと、キーワードには出てきていないんですけども、特に言われてますのは、ムーンショットという言葉です。ケネディ大統領が月に人を立たせる、と言って、現実的に 1960 年代に人が行った。それがムーンショットという表現をされていまして、要は、とてもそんなことはできないんじゃないこと思うんだけど、人としてそこに夢と希望を持ってまい進するという考え方、葛西では、ムーンショットというと、すごくオーバーなことになってしまうことかもしれませんが、何か、いつ、誰と何をするのかというのはこれからの議論なのかもしれませんが、いったいどういう機能、新しい水族館という施設を皆さん

と共有して、ムーンショットを描いて、実際にプロセスをデザインしていくということが、私たちにかかっていると思います。あともうひとつは、我々コミュニケーションの領域では、100年人生ということも言われていますし、これから人間100年生きていけるという社会になっていくわけですが、100年生きるためにはどういったメンテナンスをしていくのかという議論が当然出てくると思います。私自身は50代なもので、今になって焦ってる、健康管理が、っていう感じなんですけども、これまでの不摂生がどう影響が出るんだろうという状態なんですけども、子供の時から、100年使える、任せる命ってものを磨いていくっていうものを考えていくようなライフスタイル、人生設計になっていくというんだと思った時に、この水族館が、どういう風に子供時代、大人時代、老人時代という3世代にわたって施設がよりそってくれるのかなというのを考えていければいいのかなと思っています。よろしくお願いします。

○西座長 木下委員、どうぞ

○木下副座長 私の研究の一つの柱が、博物館ということでありまして、私自身が東京大学にうつる前は、兵庫県立近代美術館で学芸員をやっておりました。東大の博物館にうつり、2000年に文化資源学という新しい研究専攻ができたときに、そちらにうつって、今日に至っております。定年まであと1年ちょっとなんですけども、今年静岡県立美術館の館長を併任することになりまして、また博物館の世界と実際に深くかかわれるという状況になっています。美術館、博物館なんですけども、10年ほど前から動物園のことがとても気になりはじめまして、それまで動物園と無縁だと思っていたのがなんでかなと思ひ、そのこと自体を直そうと考へ、動物園の方たちと話をしながら、日本動物園水族館協会がやはり、非常にこう危機感を抱き始めた時期でもあつて、広報戦略会議というものをJAZAで立ち上げたんですね。その委員として迎えられまして、10年ほどJAZAと関わってまいりました。一昨年前から顧問という形でなっておりますけども、JAZAの意識としては、このままだと日本の動物園水族館は立ちいなくなるだろうということで、そうした会議もやりましたし、それまでは本当に外に向けて発信してなかったんですね。一般公開のシンポジウムというものを初めてやりまして、これ全国7会場で行ったんですけども、命の博物館の実現を求めてというタイトルで。その時のサブタイトルが、消えていいのか、日本の動物園水族館でした。たぶん一般の方々に動物園水族館が消えるだろうとは思われていないと思うんですね。今まであったものはこれからもあるだろうと思われていると思うんですけども、決してそのようなことではないだろうというようなことを共有した上で取り組んでまいりましたが、必ずしもそれがきちんと社会的に発信できたかどうかということは、まあ、十分ではなかったかなと。そういった中で、譲れない一線は何だろうと考へまして、先ほど海津先生もおっしゃってましたが、動物だけは実物、本物であるということ。これは、動物園水族館に限らず、ミュージアムにおいて譲れない一線だな、という風に思っております。そうしたときに今のお話を聞いて、事務局からの説明を受けて、5ページの開館時の理念、細かいものは、これから検討していくべき大きなことだと思いますが、自然教育を重視す

る公共施設ということが四角で囲われています。博物館は社会教育施設として、日本の社会の中で登場してきて、そういう役割を担ってきたと思うんですが、やっぱりここにきてそれだけではなくなりつつあるし、JAZA 自体が環境省に対して、動物園水族館法の制定を求めようことをやり、そして結果としては、種の保存法の改正の中で、動物園水族館植物園のことが条文の中に盛り込まれたんですね。これはすごく大きなことで、動物園水族館植物園が何をするとところなのか、根拠が非常にあいまいだったので、それはとてもいいことだと思うんですが、社会教育施設というのは文部科学省が所管になっている、と考えたときに、環境省に軸を移すことになった。博物館、美術館もこれまでどおりではない。たぶん東京国立博物館もそういう問題に直面されてると思うんだけど、文科省よりも文化庁の方に、という、すごく状況が変わっていく中で、そういうことも含めて、葛西臨海水族園のあり方というものを一緒に考えていきたいと思います。あともう一つ、私が今年館長になりました静岡県立美術館は、31年目を迎えています。水族館に限らず、博物館美術館の世界も、30年を向かえたところは、結構長期間閉鎖をしまして、設備の交換をせざるを得ない時期になっています。そういう非常に切実な問題であるということを、私自身思いながら、この会に参加をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○西座長 どうもありがとうございます。東京国立博物館は先ほどの説明ですと、葛西臨海水族園の母体になるようなところですけども、小林委員の方からもよろしくお願いいたします。

○小林委員 東京国立博物館の小林でございます。よろしくお願いいたします。ムーンショットというお話を伺って、なんて素敵なお話なんだろうと思いました。実は最初にこの検討会のお話を頂戴いたしましたときに、私の中では夢を描くというよりは、大変なんだろうな、という思いのほうが先にございました。私も同じく博物館の中におりまして、例えば、大変素敵なお話なんだけれども、使い勝手の面ではまた違うところもあるとか、特に東京国立博物館では重要文化財の建物も抱えておりますので、現実との折り合いのなかで多くの困難があります。その中で実を申し上げますと、東京国立博物館でもリニューアルの話が持ち上がっていますが、なかなかお金がつかえません。おそらくこちらは大変なんだろうな、と。どちらかというところ、そうした小さい小さい気持ちで参りまして、今日、委員のみなさまのお話を聞いて、そうか、この検討会は夢を立ち上げるところだったんだ、と知った状況でございます。そうはいつでも私は、おそらく現場を抱えている人間として、そここのところとの折り合いで、何か意見を申し上げられることがあれば、と思います。また、今私が所属しておりますのが博物館の教育の部署でございます。来館者のためにいかに豊かな体験をデザインできるか、ということを一つのテーマにしております。特に私どものような館では、まずは文化財ありき、展示ありきで、その後から来館者の体験をどうやったら作れるか、みたいな、つけたし、つけたしできたような経緯があらうかと思っております。水族館の場合は、今それが逆転した形で、来館者の体験を軸にどんどん発展されていて、本当に素晴らしいなと思うんですけども、おそらく今回、検討にあつ

ては、そういったことをもっと進めるような形になるのかなと思っておりますので、そこに行くまでに、どうやったら多くの来館者、誰でもというキーワードがございましたけれども、それに向けて、どんなことができるのか、ということを私なりにお話しできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○西座長 どうもありがとうございます。それでは佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 愛媛大学の佐藤でございます。私実はここの施設の開館の直前から初代の動物解説員をしておりまして、この施設ができるときの、本当にパッションといいますか、当時この施設を作ろうとして現場にいた人たちの中には、いままで見たことないものをひとつ作ってやろう、この世になかったものを俺たちは作っているんだという強い気概と、それを本気で支える技術がありました。その当時私は魚類生態学をやっていたんですけども、紆余曲折を経まして、まさに先ほど来出てきています SDG s の中核に潜り込むような、いかに持続可能な社会を創っていくかを考える持続可能性科学という分野をやっております。愛媛大学にはこの4月から移ったんですけども、それ以前は京都の総合地球環境学研究所というところで、大型のまさに持続可能性科学を中心に据えた研究プロジェクトをやっておりました。そういう観点から見たときに、おそらく今回のこの委員会としては、世界のトップランナーとしてまったく新しい、これまでになかった水族館を作ってやろうじゃないかという、ひとつの目標像というか、ムーンショットの行き先を描けるかどうか、というところが、一つの私たちに課せられたミッションなのではないかと思えますし、その時におそらくいくつかの、どこの誰も考えたことがなかったかもしれないようなアイデアというものがあるだろうと思っております。生物多様性というものが非常に重要であるということの背景というか、生物多様性が何を支えているかといいますと、人間生活の基盤になる生態系機能と生態系サービスであります。生態系という視点が本当に重要なものではないかと思っております。その生態系と人とのかかわりが描き出されるような水族館であろうとしたときに、もしかすると、これまである意味では30年前の葛西は、世界で初めてマグロを、という、言ってみれば珍しい生物の展示を中枢にしていたのを、そこから一歩抜け出して、生物の展示というより、生態系、人間と自然とのかかわり自体の展示という、方向性があり得るのではないかと今お話を伺っていながらつらつらと思ひ至りました。これから持続可能な未来につながるような様々アクションをおこしていく、中心になりうるような施設としての水族館という見方がありうると思えます。そのようなときに、水族館が果たす機能として、先ほど来出てきている人と自然とのつながりという話に加えて、実はこういう施設って、人と人をつなぎます。これまで出会ったことのない人たちが、ここで、全く新しい視点の下につながる、これは私どもの世界ではバウンダリーオブジェクトという言い方をしますが、異質なものの境界にあって、両者をつなぐ役割をするものとして、水族館が役割を担うという視点は面白いかもしれないと思っております。それからもうひとつ、持続可能性というものを考える際には、海洋生態系がもたらしている資源というものを、どのくらいこういう施設の中でうまく生かすことができるかといっ

たことをつらつらと考えております。私にとっては非常に思い入れの強い施設でございます。なんとか世界のトップランナーとしての発展に貢献させて頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

○西座長 どうもありがとうございました。とても熱いコメントを。では、千葉委員お願いいたします。

○千葉委員 初めまして千葉千枝子と申します。淑徳大学の方で観光をやっております。私がなぜ指名をいただいたのかと言いますと、おそらく、ユニークベニューという言葉が先程出ておりましたが、ひとつの賑わいの場ということで葛西を新しく活用していこうという思いでいらっしゃるのかなというふうに感じております。私は10年間観光ジャーナリストとして活動をしてまいりまして、さまざまな他国の政府観光局のプレスツアーなんかも見続けていく中で、近年こういう水族館とか、ポリショイというところでナイトサファリ、ユニークベニューとして観光バスでたくさんいらっしゃる大きいパーティをやったりできる場所をユニークな会場として見立てて、さまざまなイベントをやる場所にできたらなお素晴らしいのではないかと、というのが私の意見でございます。それから、息子2人おありまして、大学生なんですけども、こどもが小さいころよく車でここに来たんですね。非常に今日懐かしく感じたんですけども、子供がもう大きくなりますと一緒に行ってくれないから、そうしたところで、おそらく、例えばウェディングの会場ですとか、何かのショーといった形で活用ができたという風に思いました。シンガポールがカジノ法を改正してカジノを導入したとき、やはり、ナイトサファリといった夜のショーを考えました。また動物愛護の観点から考えたときにいいのかどうかわかりませんが、エレファントライドなど、動物をテーマに、アジア各国がインバウンド誘致にしのぎを削っているというような中で、葛西が対応なされればいいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○西座長 ありがとうございます。それでは鳩貝委員、どうぞ。

○鳩貝委員 鳩貝でございます。みなさまのこれまでの素晴らしい意見、アイデアとか、みなさまの情熱を感じました。身が引き締まる思いがしまして、私もしっかり勉強しなきゃいけないなと思いました。私はもともと高校の教員をやっております、それから国の教育研究所に行ったのです。学校では社会科見学というと、博物館に行って、勉強するというより遊んでくるという、博物館は遊びの場というようなイメージがありました。私は教員になりまして、上野の科学博物館を学習の場にしなければいけないということで、生徒を連れて科学博物館に行き、生物教育の場ということで、隣接する上野動物園にも連れて行ったことがございます。だいぶ前のことで、半世紀くらい前の話になりますけども。学習指導要領の社会科には、博物館を活用するというのがずっと前から入っていたのですが、理科の方には、そういう社会教育施設での学習というのは入ってなかったんですね。平成10年の学習指導要領改訂で、理科に「博物館などの利用」という、社会教育施設を大いに活用すべきという文言が入りました。遊びに行くだけではなく、教育の場として、博物館、動物園、水族館等を活用することになったわけです。環境教育も非常に重視され

るようになりましたが、まだ途上です。そういう意味でも、水族館は、先ほどの説明にもありましたように、自然教育を重視する公共施設、ということで、重要な役割をしている。多くの水族館は観光施設として、集客力を持っていますけども、公共施設であるからこそ、教育というものをしっかり考えなければいけないだろうと考えておりました、少しでもお役に立てればと思っております。先日、葛西臨海水族園が教員向けの研修会で募集をしましたところ、すぐに一杯になってしまいました。今子供たちは、バーチャルな世界でしかものを知らない、本物を知らない、そういう育ちをしている。そんな子供たちに、本物を知らせる教育をしなきゃいけない。教科書ですら、デジタル教科書というような方向に行くようになると思っております。そもそも本物を知らないで、わかっているつもりにさせてしまうという危険性を感じています。そんな意味でも、素晴らしい水族館になるように少しでもお役に立てればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○西座長 どうもありがとうございました。みなさまから非常に希望のわくようなご意見をいただいて心強く思っております。私は水族館に勤めまして、実は51年になります。最初は大分の、今はうみたまごというところに行ったのですが、行ったときには、すでにインダイのショーが始まっています、その当時、修学旅行なんかで来て、年間100万人入るのはあそこだけだったと思います。そんなに人が入るのか、と思って驚いていたのですが、それからしばらくして東海大学に移ったんですが、そこではちょうど1970年に国がマグロの養殖技術開発をするというので、近畿大学と東海大学、その他いくつかの水産試験場が入って、研究を始めました。近畿大学は海のいけすで飼う、我々は海という道もあったんですが、水族館で飼う、ということで10m四方の水槽の中で、世界で初めてマグロを飼うんだということで、4年間やりましたが、狭すぎてどうしようもない。何とか1キロぐらいのマグロを入れて、半年飼ったりしたんですけども、1キロだと30cm、40cm位のものを半年飼っても、マグロを飼ったことにならないと思いました。マグロを飼うってことがどんなことなのかといいますと、ある程度みなさんがイメージされる最低1m以上のマグロをいつでも見られるっていうのがマグロを飼えたって言えるなと思っていたら、1989年に葛西が開館されて、マグロを飼われた。ああ、すごいなあと思いました。1999年にはマグロが産卵しまして、世界で初めてということで感激しております。一昨年にはマグロが死んだり、いろんなことがありましたけども、本当に難しいんだなということをその時に感じました。生きものを飼うのは、何十年やっても何がおきるかわからない。一方で、マグロは本当に素晴らしい魚だなと感じました。クロマグロは日本近海にしか産卵場がなく、ご承知かと思えますけども、一年たったら太平洋を横断してアメリカに行くんですね。それで西海岸で育って、またこっちへ卵を産むためにこっちに戻ってくるんですね。太平洋を横断するために、水の抵抗がないように背びれもポケットがあって畳み込めるし、胸びれも凹んだところにしてしまうことができる。泳ぐために設計されたようなすばらしい体です。それだけに狭いところで飼うことは難しい。いまでも、世界で唯一、ここだけで見せられます。そういうものを、江戸前の魚ってことで、魚市場でセリも行われていますし、これ

からも見せられればいいんじゃないかなと思います。水族館にながくいて、大きな水族館ができたり、美ら海ができたりして、ジンベイザメを飼うなんてことはひと昔前には考えられなかった。それがどんどん実現していて、かなり色々なことができてしまったなと思いますが、一方で、水族館は、最も幅広い年齢の人が楽しめる文化施設だという風に言われる方がいまして、なるほどなと思いました。そういうことで、これから新しい、世界でどこにもないものを、みなさんのお力添えを得て、考えられればいいなと思っています。どうぞよろしく申し上げます。時間が押してしまって申し訳ございません。

○荒井課長代理 西座長、ありがとうございます。以上をもちまして、第一部は終了とさせていただきます。

続けて、第二部の視察についてご案内いたします。

視察は75分程を予定しております。屋外になりますので、上着などはお持ちいただければと思います。大きなお荷物や資料についてはここに置いていただいたままで結構です。貴重品についてはお持ちいただければと思います。

3時45分くらいからご案内させていただきますので、委員の皆様には、それまでにご準備いただければと思います。

(午後3時35分終了)